

今日は地震を想定した避難訓練を行いました。9月1日は防災の日。広く国民が台風や津波、地震などの災害についての認識を深め、これに対処する心構えを準備するために制定された日です。その前後1週間が防災週間となり、全国で避難訓練を始めとする防災に対する意識を高めようとする取り組みが行われています。

みなさんもよく知っているとおり、日本は地震が多く発生する国です。マグニチュード6以上の地震に限っては、世界で起きた地震の20%が、日本で発生しているというデータもあります。また、令和になって1年余りというわずかな期間に、100年に一度といわれる災害が相次ぎ、各地に甚大な被害をもたらしました。

防災学習とは減災について学ぶことです。地震や台風などの自然災害は防ぐことはできませんが、私達はそれによる被害は、最小限におさえることができます。

防災学習で大切なのは、まずは、世界に一つしかない大切な自分の命を自分で守ること、自分の命がなければ、大切な人の命を守ることはできません。助けられる人から助ける人になることが、求められているのです。

命を守る避難訓練は、常に100点満点でなければなりません。早めに集合場所に来て、皆さんが避難する様子を見ていました。地震発生から避難・集合・点呼に至る流れは大変スムーズでした。このような態度は急にできるものではありません。日頃からしっかりと取り組んでいることの積み重ねがあるからこそ、できていることなのです。今日は、みんなで避難訓練を行いました。どこかで一人にいるときに災害に遭遇するときがあるかもしれません。今日も行いましたが、避難をするときのポイントは3つ。

一つ目は、冷静になること。二つ目は、いつ避難するのか（タイミング）、三つ目はどこに避難するか（場所）です。

一つ目の冷静になるというのは、深呼吸して、次の行動の準備をすること。パニックになり、当たり前のことができなくなってしまうからです。

二つ目と三つ目の「いつ、避難するか」「どこに避難するか」については、大きな揺れを感じたらすぐに頭を保護し、上から物が落ちてこない、横から物が倒れてこない、横から物が移動してこないところに身を寄せて、揺れが収まるのを待つということです。次の行動をとるタイミングを見極めるということです。釧路沖地震や新潟中越大地震では、揺れを感じてガスコンロの火を消そうと思ったところ、やかんや鍋から熱湯がこぼれて大やけどをおうという事例が多く発生されています。まずは、身の安全を最優先にすることです。

「いつ」と「どこ」に避難するかについては、常に考えておかなければならない問題です。人間には危険を最小評価し、自分だけは大丈夫だろうという意識が働くからです。熊本県を中心に発生した令和2年7月豪雨で、多くの方に甚大な被害をもたらしました。気象庁も大雨特別警報を出すことになるとは予想できなかったといえます。どれだけ科学技術が発展しても自然災害に対する予測は難しいものです。先日も緊急地震速報が誤って発出されました。信頼できる情報を収集しながら、自分の目で見て、体で感じて、いつもとは違うなと思ったときは、最悪の事態を想定して、避難行動をとりましょう。その行動は、ときに空振りになるかもしれませんが、訓練のための素振りとしていざというときの大きな力になります。